

# 滋賀県におけるエネルギーに関するアンケート結果

調査時期：平成23年10月

県政モニター：352人

回答数：288人(82%)

担当課：総合政策部企画調整課

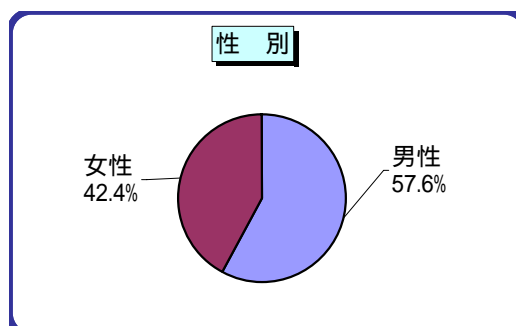
調査目的：

東日本大震災を契機に、エネルギーのあり方に関する議論が盛んとなっています。そうした中、滋賀県における再生可能エネルギー（特に、太陽光や太陽熱、風力、小水力、バイオマスなど地域分散型のエネルギー）に関する皆さんのご意見をお伺いし、今後の参考とさせていただきますため、アンケート調査を実施しました。

割合(%)は、四捨五入の結果100%に一致しない場合があります。

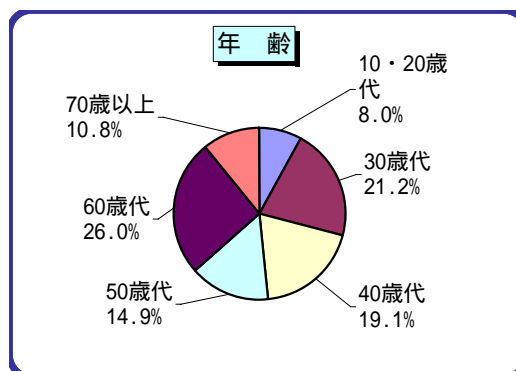
## 問1 あなたの性別を教えてください

	人数	割合
男性	166	57.6%
女性	122	42.4%
計	288	100%



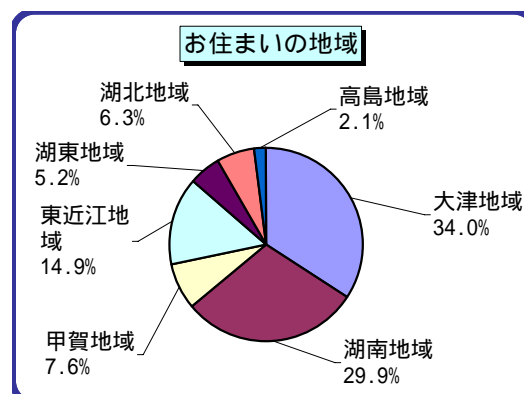
## 問2 あなたの年齢を教えてください

	人数	割合
10・20歳代	23	8.0%
30歳代	61	21.2%
40歳代	55	19.1%
50歳代	43	14.9%
60歳代	75	26.0%
70歳以上	31	10.8%
計	288	100%



## 問3 あなたのお住まいの地域を教えてください

	人数	割合
大津地域	98	34.0%
湖南地域	86	29.9%
甲賀地域	22	7.6%
東近江地域	43	14.9%
湖東地域	15	5.2%
湖北地域	18	6.3%
高島地域	6	2.1%
計	288	100%

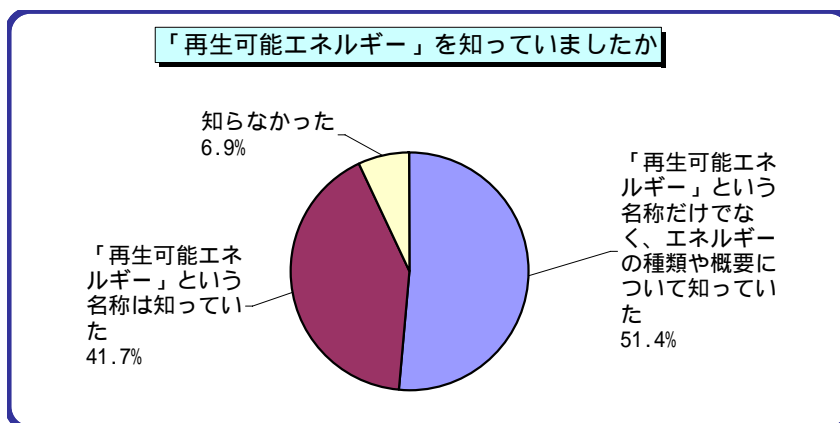


問4 「再生可能エネルギー」を知っていましたか。（回答は一つだけ）

「再生可能エネルギー」

... 自然環境の中で、何度も繰り返し起きている現象の中から取り出すエネルギーのことで、太陽光や風力、水力、地熱等を利用するものがあります。

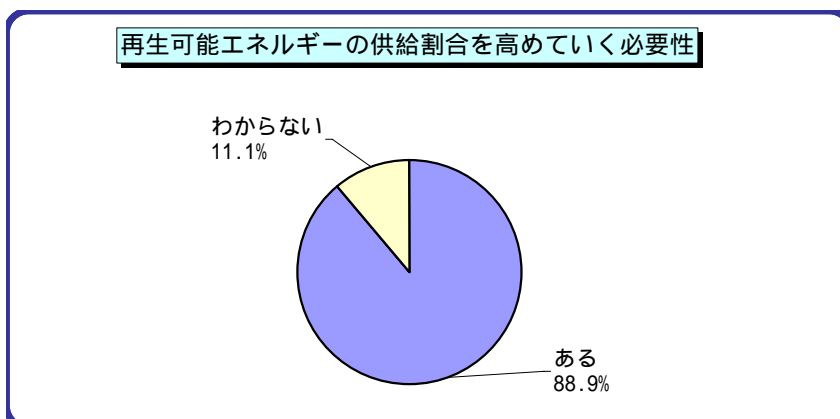
	人数	割合
「再生可能エネルギー」という名称だけでなく、エネルギーの種類や概要について知っていた	148	51.4%
「再生可能エネルギー」という名称は知っていた	120	41.7%
知らなかった	20	6.9%
計	288	100%



問5 今後、再生可能エネルギーの供給割合を上げていく必要があると思いますか。（回答は一つだけ）

	人数	割合
ある	256	88.9%
ない	0	0.0%
わからない	32	11.1%
計	288	100%

問6～問10のあと、問12へ  
 問11のあと、問12へ  
 問12へ

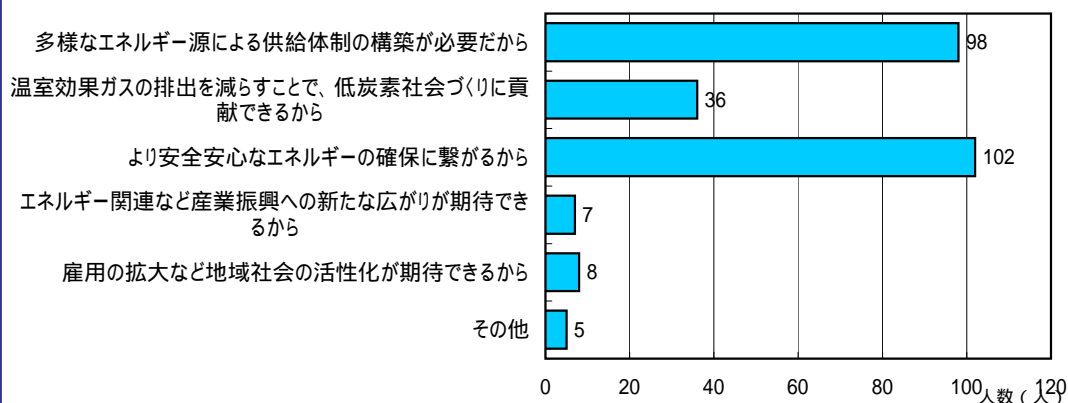


**問6 再生可能エネルギーの供給割合を高める必要があると思う理由は何ですか。（回答は最も近いものを一つだけ）**

問5で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ある」とされた方（256人）が回答。

	人数	割合
多様なエネルギー源による供給体制の構築が必要だから	98	38.3%
温室効果ガスの排出を減らすことで、低炭素社会づくりに貢献できるから	36	14.1%
より安全安心なエネルギーの確保に繋がるから	102	39.8%
エネルギー関連など産業振興への新たな広がりが期待できるから	7	2.7%
雇用の拡大など地域社会の活性化が期待できるから	8	3.1%
その他	5	2.0%
計	256	100%

**再生可能エネルギーの供給割合を高める必要がある理由**



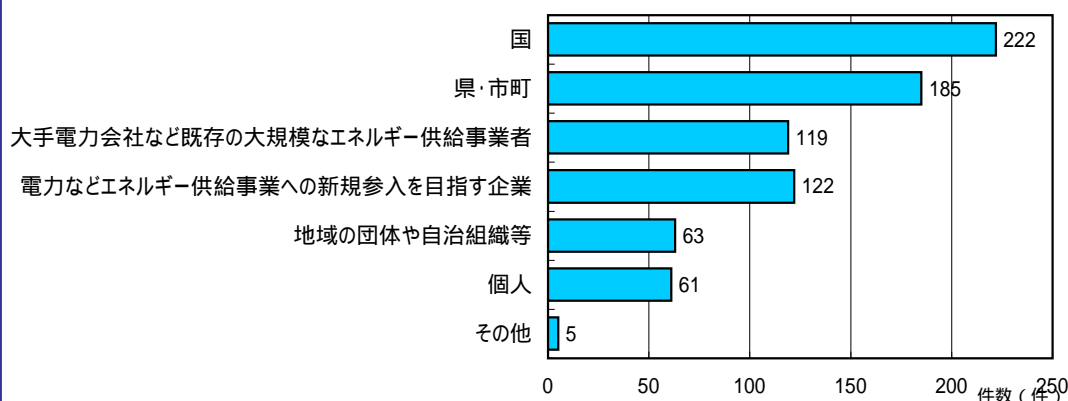
**問7 再生可能エネルギーを普及させるためには、次のどの主体の取組が重要だと思いますか。（回答はいくつでも可）**

問5で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ある」とされた方（256人）が回答。

	件数	割合
国	222	86.7%
県・市町	185	72.3%
大手電力会社など既存の大規模なエネルギー供給事業者	119	46.5%
電力などエネルギー供給事業への新規参入を目指す企業	122	47.7%
地域の団体や自治組織等	63	24.6%
個人	61	23.8%
その他	5	2%
計	777	

「割合」については、回答者数（256人）を母数として算出。

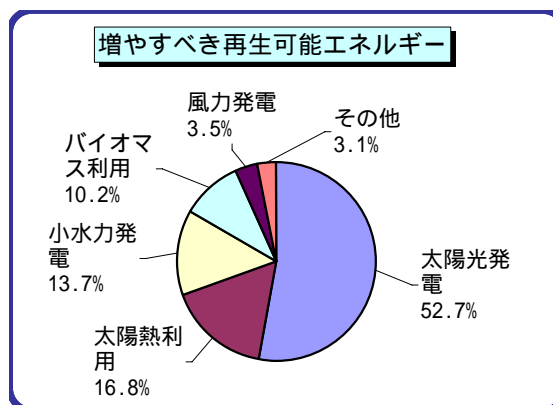
**再生可能エネルギー普及のために重要となる取組の主体**



**問 8 今後、滋賀県での再生可能エネルギーの普及促進に向けた取組において、どのエネルギー利用を一番増やすべきだと思いますか。（回答は一つだけ）**

問 5 で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ある」とされた方（256人）が回答。

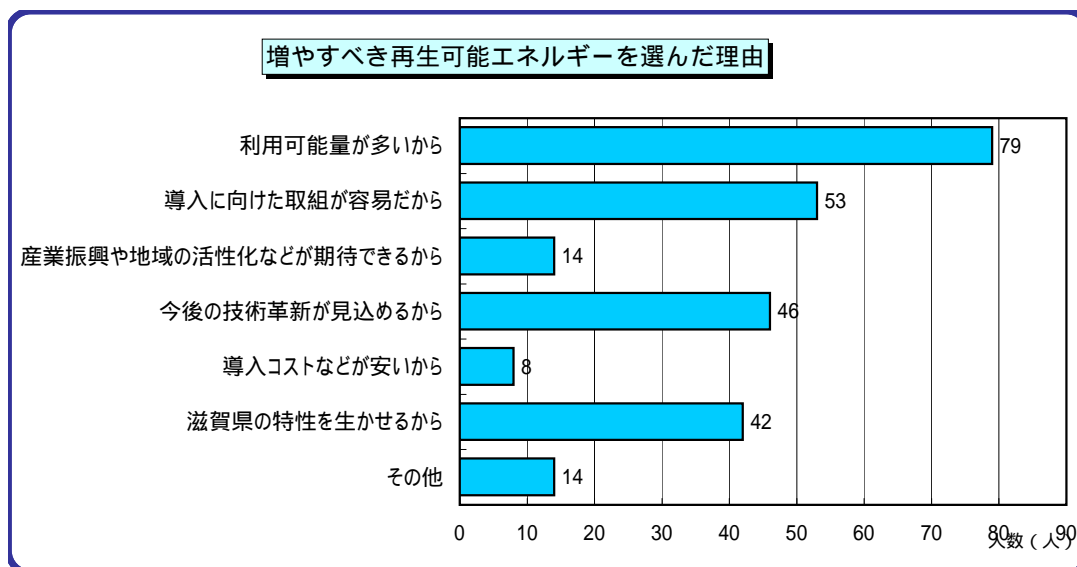
	人数	割合
太陽光発電	135	52.7%
太陽熱利用	43	16.8%
小水力発電	35	13.7%
バイオマス利用	26	10.2%
風力発電	9	3.5%
その他	8	3.1%
計	256	100%



**問 9 問 8 の回答を選んだ理由は何ですか。（回答は最も近いものを一つだけ）**

問 5 で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ある」とされた方（256人）が回答。

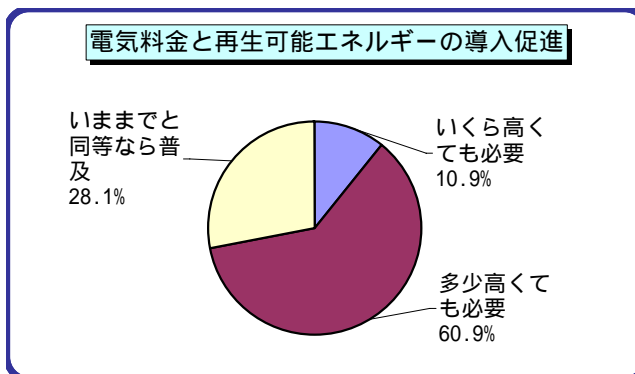
	人数	割合
利用可能量が多いから	79	30.9%
導入に向けた取組が容易だから	53	20.7%
産業振興や地域の活性化などが期待できるから	14	5.5%
今後の技術革新が見込めるから	46	18.0%
導入コストなどが安いから	8	3.1%
滋賀県の特性を生かせるから	42	16.4%
その他	14	5.5%
計	256	100%



問10 発電用に再生可能エネルギーの導入を促進すると、電気料金が値上がりすることも予想されますが、このことについてどのように思いますか。（回答は一つだけ）

問5で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ある」とされた方（256人）が回答。

	人数	割合
いくら高くても必要	28	10.9%
多少高くても必要	156	60.9%
いままでと同等なら普及	72	28.1%
計	256	100%



問11 再生可能エネルギーの供給割合を高める必要がないと思う理由は何ですか。（回答は一つだけ）

問5で、再生可能エネルギーの供給割合を高めていく必要性が「ない」とされた方が回答。

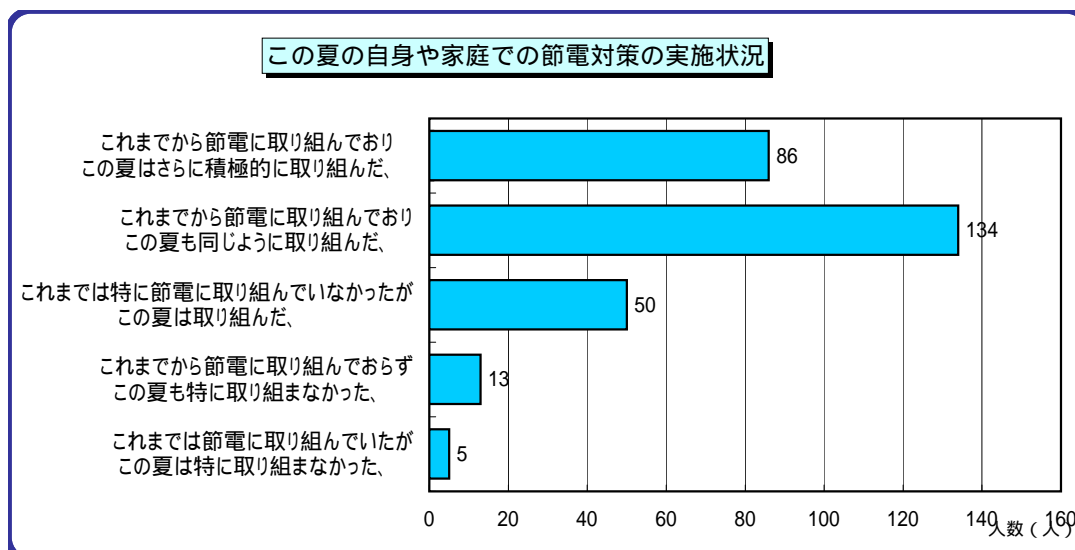
問5における「ない」の回答なし

問12 あなた自身やあなたの家庭では、この夏、節電対策を実施しましたか。（回答は一つだけ）

回答者全員が回答。

	人数	割合
これまでから節電に取り組んでおり、この夏はさらに積極的に取り組んだ	86	29.9%
これまでから節電に取り組んでおり、この夏も同じように取り組んだ	134	46.5%
これまでは特に節電に取り組んでいなかったが、この夏は取り組んだ	50	17.4%
これまでから節電に取り組んでおらず、この夏も特に取り組まなかった	13	4.5%
これまでは節電に取り組んでいたが、この夏は特に取り組まなかった	5	1.7%
計	288	100%

この夏、節電に取り組んだ。  
270人

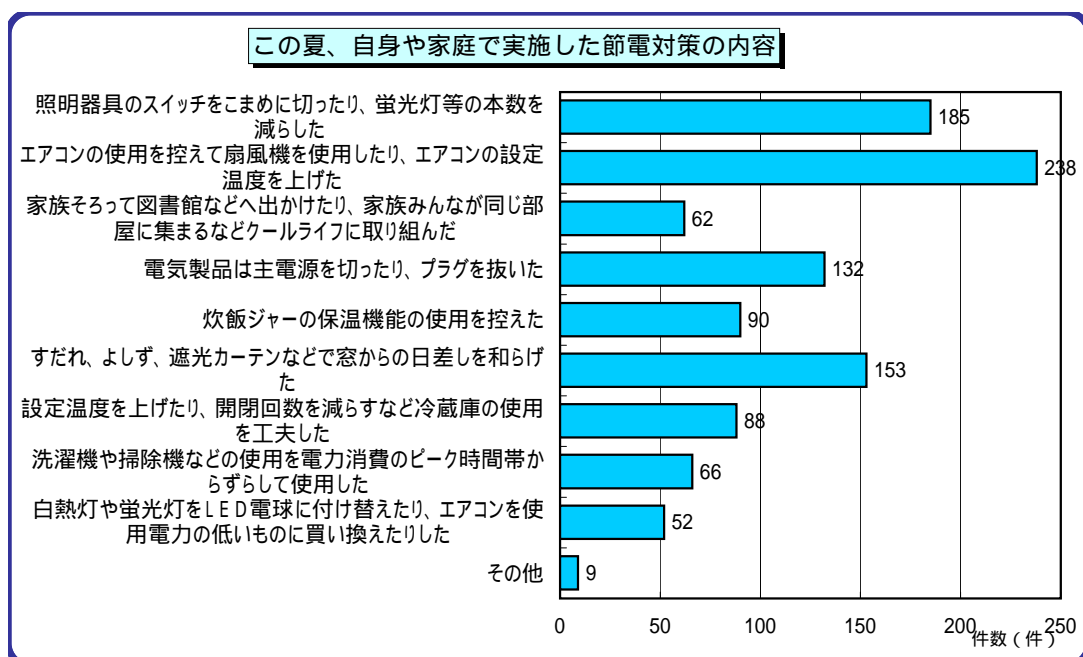


**問13 あなた自身やあなたの家庭では、この夏、どのような節電対策等を実施しましたか。（回答はいくつでも可）**

問12で、この夏に節電に取り組んだ方（270人）が回答。

	件数	割合
照明器具のスイッチをこまめに切ったり、蛍光灯等の本数を減らした	185	68.5%
エアコンの使用を控えて扇風機を使用したり、エアコンの設定温度を上げた	238	88.1%
家族そろって図書館などへ出かけたり、家族みんなが同じ部屋に集まるなどクールライフに取り組んだ	62	23.0%
電気製品は主電源を切ったり、プラグを抜いた	132	48.9%
炊飯ジャーの保温機能の使用を控えた	90	33.3%
すだれ、よしず、遮光カーテンなどで窓からの日差しを和らげた	153	56.7%
設定温度を上げたり、開閉回数を減らすなど冷蔵庫の使用を工夫した	88	32.6%
洗濯機や掃除機などの使用を電力消費のピーク時間帯からずらして使用した	66	24.4%
白熱灯や蛍光灯をLED電球に付け替えたり、エアコンを使用電力の低いもの買い換えたりした	52	19.3%
その他	9	3.3%
計	1,075	

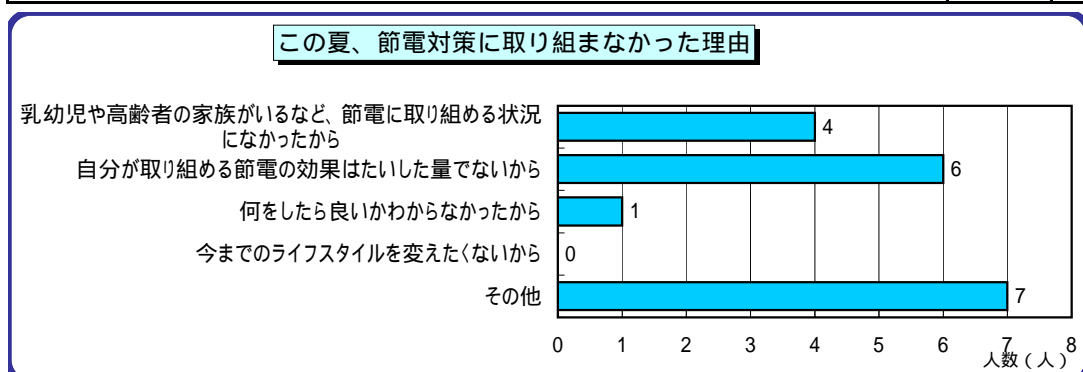
「割合」については、回答者数（270人）を母数として算出。



**問14 この夏、節電に取り組まなかった理由は何ですか。（回答は一つだけ）**

問12で、この夏に節電に取り組まなかった方（18人）が回答。

	人数	割合
乳幼児や高齢者の家族がいるなど、節電に取り組める状況になかったから	4	22.2%
自分が取り組める節電の効果はたいした量でないから	6	33.3%
何をしたら良いかわからなかったから	1	5.6%
今までのライフスタイルを変えたくないから	0	0.0%
その他	7	38.9%
計	18	100%

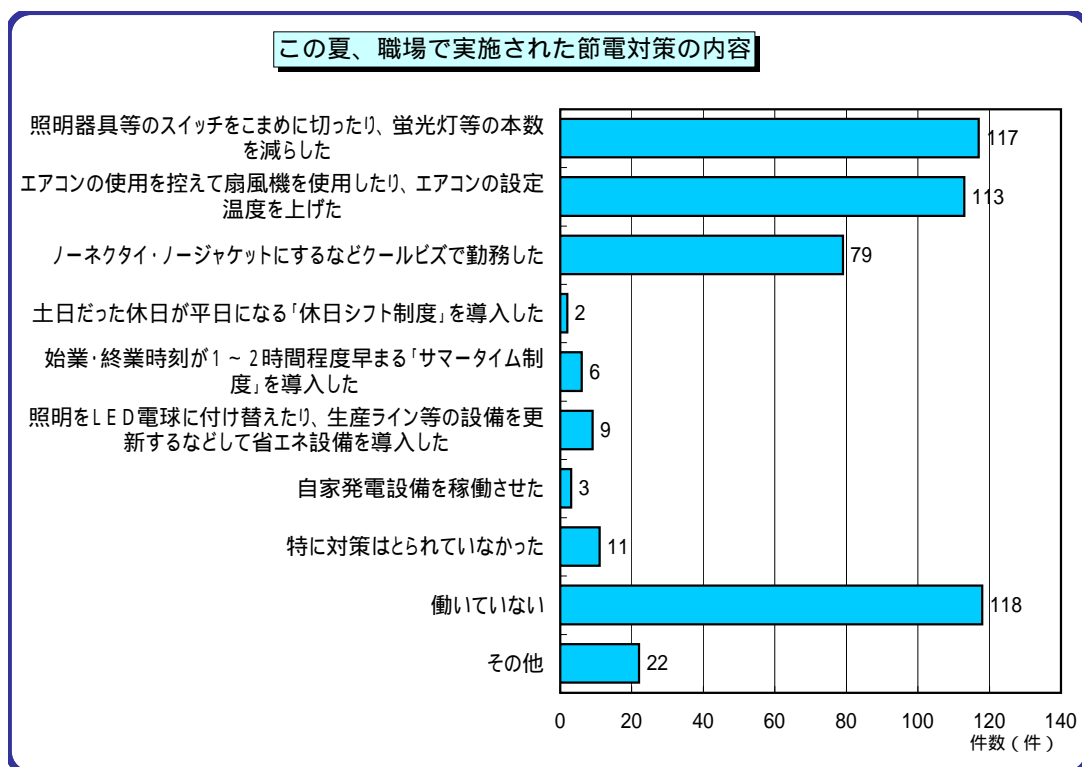


問15 あなたの職場では、この夏、どのような節電対策等が実施されましたか。（回答はいくつでも可）

回答者全員が回答。

	件数	割合
照明器具等のスイッチをこまめに切ったり、蛍光灯等の本数を減らした	117	40.6%
エアコンの使用を控えて扇風機を使用したり、エアコンの設定温度を上げた	113	39.2%
ノーネクタイ・ノージャケットにするなどクールビズで勤務した	79	27.4%
土日だった休日が平日になる「休日シフト制度」を導入した	2	0.7%
始業・終業時刻が1～2時間程度早まる「サマータイム制度」を導入した	6	2.1%
照明をLED電球に付け替えたり、生産ライン等の設備を更新するなどして省エネ設備を導入した	9	3.1%
自家発電設備を稼働させた	3	1.0%
特に対策はとられていなかった	11	3.8%
働いていない	118	41.0%
その他	22	7.6%
計	480	

「割合」については、回答者数（288人）を母数として算出。

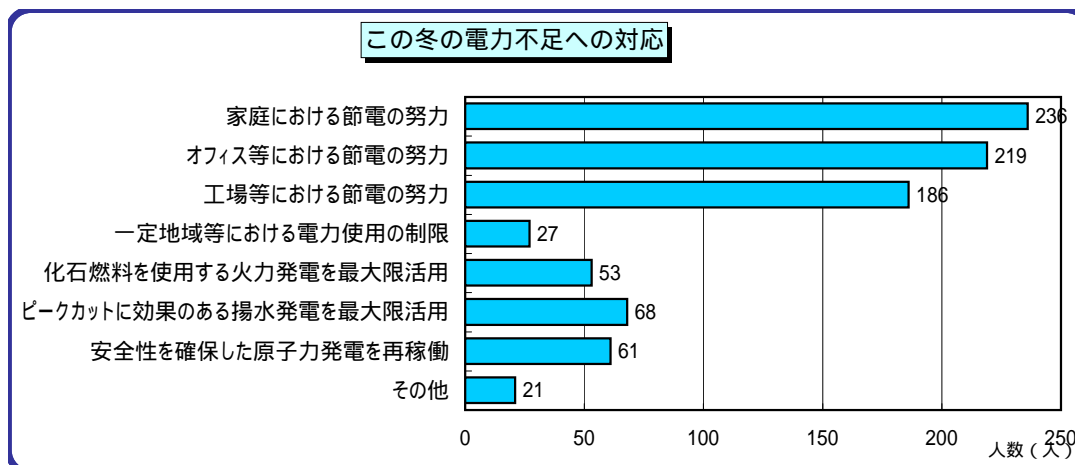


問16 この冬も電力が不足するのではないかとされていますが、どのような対応が適当だと思いますか。（回答はいくつでも可）

回答者全員が回答。

	人数	割合
家庭における節電の努力	236	81.9%
オフィス等における節電の努力	219	76.0%
工場等における節電の努力	186	64.6%
一定地域等における電力使用の制限	27	9.4%
化石燃料を使用する火力発電を最大限活用	53	18.4%
ピークカットに効果のある揚水発電を最大限活用	68	23.6%
安全性を確保した原子力発電を再稼働	61	21.2%
その他	21	7.3%
計	871	

「割合」については、回答者数（288人）を母数として算出。

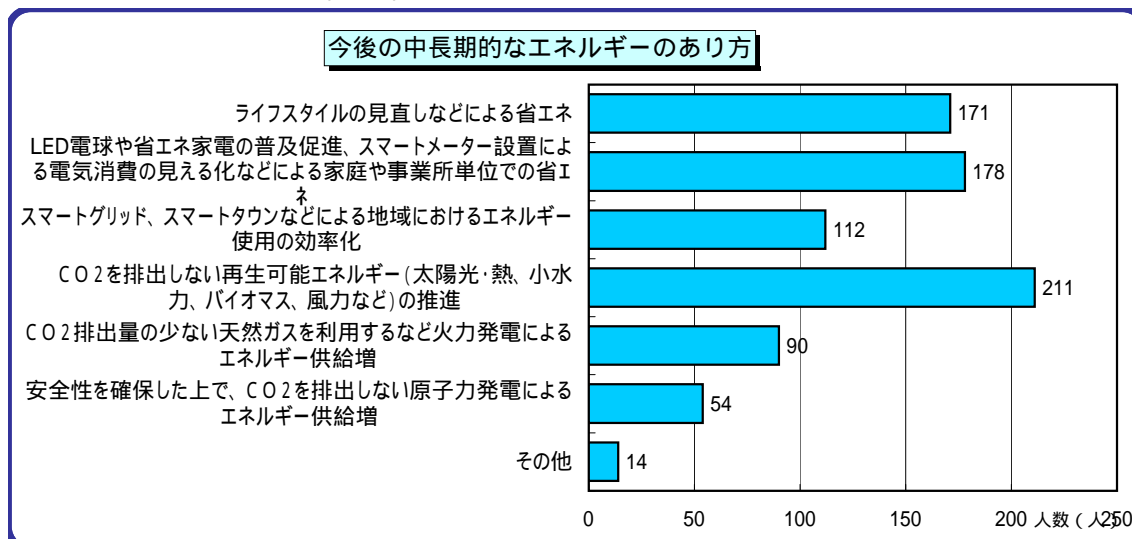


問17 今後、中長期的なエネルギーのあり方として、どのような方向が重要だと思いますか。（回答はいくつでも可）

回答者全員が回答。

	人数	割合
ライフスタイルの見直しなどによる省エネ	171	59.4%
LED電球や省エネ家電の普及促進、スマートメーター設置による電気消費の見える化などによる家庭や事業所単位での省エネ	178	61.8%
スマートグリッド、スマートタウンなどによる地域におけるエネルギー使用の効率化	112	38.9%
CO <sub>2</sub> を排出しない再生可能エネルギー（太陽光・熱、小水力、バイオマス、風力など）の推進	211	73.3%
CO <sub>2</sub> 排出量の少ない天然ガスを利用するなど火力発電によるエネルギー供給増	90	31.3%
安全性を確保した上で、CO <sub>2</sub> を排出しない原子力発電によるエネルギー供給増	54	18.8%
その他	14	4.9%
計	830	

「割合」については、回答者数（288人）を母数として算出。





**問18 その他、滋賀県におけるエネルギーのあり方に関してご意見がありましたらお聞かせください。**

- ・再生可能エネルギーの中に、地方自治体で実施しているゴミ焼却施設の活用がない。焼却施設も効率のよい炉が建設されており、CO<sub>2</sub>の排出も少なく、その熱源を利用した火力発電などは考えられないか。化石燃料を使うことによる問題は多いと思うが、ゴミ焼却炉は24時間稼働しており、小発電でも県内全体で見れば大きな供給源になる。
- ・太陽電池のパネルのレンタル
- ・滋賀県も含めて日本にはダムが沢山存在する。ダムを利用した大規模水力発電を、もう一度見直すことを提案する。既存のダムに水力発電機を設置する方法を検討すべき。
- ・琵琶湖の豊富な水を利用した発電の研究をすすめて、将来に向けてクリーンなエネルギーの確保に努力すべき。
- ・電力供給の規制緩和などの、難しい課題を抱えており、国の新エネルギー方針によることが重要であるが、企業・個人家庭に再生可能エネルギーの活用拡大に向けた啓蒙活動や、節電啓蒙活動などを進める。特に、県や市町村の施設などには、LED電球や、節電対策機器の積極導入が急務である。
- ・中長期的なエネルギーのあり方とは、どういうことかを具体的に学ぶことが先決であり、県下の自然環境等を踏まえた政策を立てるべき。
- ・再生エネルギーに関して、コスト・パフォーマンスをきちっと検討すること。コストアップは家計に影響し、消費意欲を減退させ、景気が低迷するとともに、企業の生産コストが上がり、他国に勝てない。これも雇用の不安につながる。
- ・エネルギーを安定的かつ適切に供給するためには、資源の枯渇のおそれが少なく、環境への負荷が少ない太陽光やバイオマスといった再生可能エネルギー源や原子力などを含む、非化石エネルギー源の導入を一層進めることが必要。同時に、より一層の省エネ電化の促進を製造メーカーに要請すべき。
- ・環境に取り組んでいる県として、再生エネルギーの積極的展開をして、それを全国に発信する。
- ・再生可能エネルギーを研究開発する企業誘致に取り組み、エネルギー開発先進県を目指すべき。例えば、県内の数か所に食料用の農作物を保管できる県立の施設を作り、その電源も県立の小規模水力発電で運営しているというようなことになれば、非常時にも対応でき素晴らしい。
- ・滋賀県に必要なエネルギーは、滋賀県で供給できるように積極的に電力供給システムを進める必要がある。
- ・太陽光の設備を、企業や一般家庭が容易に設置できるような政策があれば、発電所を作るより安価でできるのではないだろうか。太陽光にしたいけど、出来ない家庭や企業が多くあるのではと思う。
- ・滋賀県の持つ特性からエネルギー開発に何が一番向いているのかの情報が共有されていない。節電状況について、電力会社の供給範囲内の各県の努力度の状況が見えるよう適宜開示される形になっていない。
- ・滋賀県の特性を生かした取り組みをするのがよい。例えば、ベレットストーブの利用をすすめて、日本一ベレットストーブが普及している県を目指すなど、県民が誇りに思いやる気になるような政策を行うべき。
- ・環境を重視する県としてのアピールが大事。又、里山などの自然も多く、ライフスタイルの見直しによる省エネ対策を他府県にも提案するなど、環境に配慮した形を推進する。リーダーシップを取る必要がある。
- ・環境保護先進県として、県がリーダーシップを発揮する形で再生可能エネルギーの利用促進を進めるべき。
- ・家庭での太陽光発電設置などに対して、滋賀県独自でさらなる導入へのインセンティブを検討する必要がある。
- ・滋賀のニュースで琵琶湖の水位を伝えると同時に、県内の発電がどの程度できたのかも伝えたら良い。
- ・環境先進県として、滋賀県では再生可能エネルギーの研究・普及を積極的にやっていくべきである。
- ・東近江市からはじまった菜の花プロジェクトのように、エネルギーの地産地消ともいえる、地域循環型のエネルギーの仕組みを考えて行かなくてはいけない。